

陳情「難聴者の補聴器購入の補助」

賛成は共産、平井議員のみ

自、公、立憲など反対し、否決に



日本共産党
よっちゃん通信
2023.3/27.223号

3月27日、第一回市議

会最終日に、こまえ社会保
障推進協議会から出され
た「難聴者の補聴器購入の
補助を求める」陳情に、自
民、公明、立憲、松崎・三
宅・吉野・辻村・議員が反
対し否決されました。

私は、日本共産党市議
団を代表して、賛成の討
論を行ないました。

陳情1項目は「補助制度
の新設の要望」です

難聴は認知症のリスク
難聴になると、「コミュニ
ケーションを困難にし、社

会から孤立しやすく、生
活を不便にする。アルツハ
イマー病協会国際会議で
「難聴対策は認知症を予
防する一番大きな因子」
と報告されています。

早期発見・早期装用

専門家からは、早期に
発見し、補聴器を早期に
装用することが効果的と
話されています。しかし日
本では欧米に比べて装用し
ている人は少なく、必要と
している人の14%しか使
っていません。使っていない
一番の理由は、補聴器が
10万〜30万円と高額で
とても買えないからです。



支援の対象は

「40cmで聞こえない」

難聴への補助制度は、大
変重度でなければ支援が
受けられません。それは、
40cm以上で聞き取れない
程度の聴力しかないとい
うことです。

認知症を防いだり、生
活の質を良くするには、
中程度の人への支援が求め
られます。

4月からの実施を含め
すでに都内で22の自治体
が助成を実施しています。
多摩地域では昨年10月に
実施した三鷹市を始め4
月からは、4市が実施しま
す。

陳情2項目は「ケアセン
ターの設置」です

補聴器は装用すればす
ぐに聞こえるというわけに
はいかず、必要な調整が
重要です。アフターケア
の施策が求められます。

陳情3項目は「国に保険
適用を求めて」です

かつて、白内障の眼内レ
ンズ手術が長年の住民運
動で保険適用されました。
今度は難聴も保険適用が
認められれば、自治体間
の格差をなくす上でも、
購入費が高すぎることか
ら支援となります。



宮坂良子の
ホームページを
ご覧下さい